

● 首都圏で拡大するシェアオフィス

日本経済新聞 2月16日の首都圏版では、シェアオフィスについての報道があった。シェアオフィスとは、企業・個人からなる複数の入居者が大きなスペースを共用して使い、単に場所を貸すだけでなく、特に入居者同士のコミュニティ形成に重点を置く施設を呼んでいる。インターネット環境や事務機器が整っているため、オフィスを持たないスタートアップ企業や大企業がテレワーク拠点などで使うことがしばしばある。入居者の横のつながりから、相互の交流から新たなビジネスのインキュベーション、マッチング機会の提供、受発注や取引先の紹介などを通じた事業機会の拡大の可能性が生まれる。

日経新聞の報道によれば、シェアオフィスは東京都心を中心に、首都圏で拡大している。不動産サービス大手 JLL（東京・千代田）によると、東京都心におけるシェアオフィスなどの貸床面積は18年末時点で15万6千平方メートルと、1年間で5割程度拡大したという。不動産サービス大手の CBRE（同）のまとめでも、同年9月時点の都内でのコワーキングオフィスは21万平方メートルに達するという。

スタートアップ企業などは起業後間もないため、人脈や販路などは細い。シェアオフィスがそれを補ってくれる格好だ。